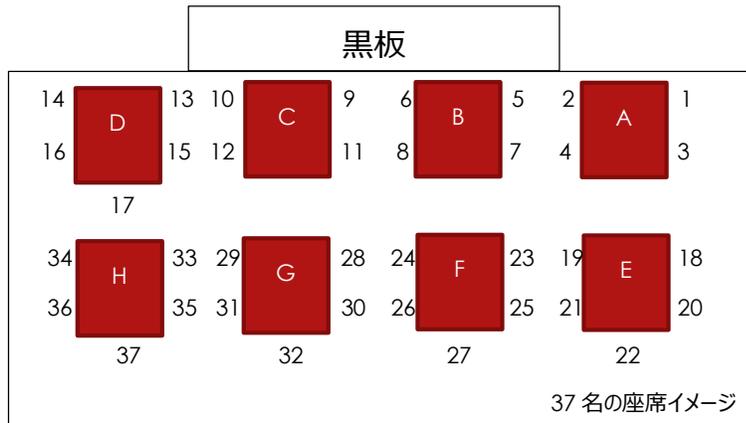


単位時間におけるワールドカフェ方式のやり方の例

授業展開

いろいろなスタイルがありますが、本校算数科で取り組んだワールドカフェ方式の流れは以下の通りです。

1. 問題提示～課題把握	5分
2. 個人による自力追究	3～8分
3. グループ内で話し合い	7分
4. 交流	3分×3=9分
5. 収穫（班まとめ）	6分
6. 自分でまとめ	3分
7. 適用問題	5分
8. （まとめ交流）	（5分）



キーになるのは、3.グループ内話し合い～6.自分でまとめの部分です。

【ルール】 ホスト（説明係）は各班 1 人、それ以外がゲスト（訪問者）になります。

一回の交流は 3 分で、それぞれ 3 回行います。一つの班に同じ班からのゲストは被らないようにします。

基本的に座席に座って話し合います（人数をある程度固定化するため）

- | | |
|---|--|
| ① グループ内でホストを決めます。 | * ホストは班内で自由に決めます。例えば A 班は 1 がホストとします。 |
| ② 他の子どもはゲストとして、他の班でホストの話を聞き、さらにその場にいる他の班のゲストと交流します。 | * A 班は 2,3,4 がゲストになります。B～H の班に移動して、その班のホストの話を聞きます。そこに来た他の班のゲストとも交流します。 |
| ③ 他の班に移動します。（交流は 3 回程度行う） | * 一度行った班にはいかず、元 A 班同士の被りもなるべく避けます。 |
| ④ 自分の班に戻り、獲得した情報を交流（収穫）します。 | * 聞いた話を交流します。時間があれば班のまとめを作ります。 |
| ⑤ 自分のまとめをします。 | * 授業を振り返り「めあて」に対応した「まとめ」を自分の言葉でします。 |

時間の管理は TK（Time Keeper）が行います。TK は課題に応じて自力追究の時間を決めることができます。

使うのは、「砂時計」「ストップウォッチ（iPad）」「呼び出しベル」です。

最大の利点は、子どもたち同士で何度も繰り返して、他者の考え方を聞き（Input）、自分の考えを話し（Output）、自分の考えを練り上げていくことです。

このことにより、より学習を主体的に、協働的に取り組むことができると考えます。

（平成 25 年 7 月作成）